



ミレー作品の海外貸出と 特別企画について

2019年9月25日（水）～2020年5月下旬



ジャン=フランソワ・ミレー
《種をまく人》1850年 油彩・麻布



ジャン=フランソワ・ミレー
《落ち穂拾い、夏》1853年 油彩・麻布

当館所蔵のミレー《種をまく人》《落ち穂拾い、夏》が、ゴッホ美術館（オランダ）とセントルイス美術館（アメリカ）で開催される「ミレーとモダンアート：ゴッホからダリまで」展に出品されます。

海外貸出期間

《種をまく人》（ゴッホ美術館へ貸出）
9月25日～2020年1月下旬（または2月上旬）
《落ち穂拾い、夏》（セントルイス美術館へ貸出）
2020年1月下旬（または2月上旬）～5月下旬

上記2作品の貸出期間中は特別企画3本を
順次開催いたします。

【貸出先について】

「ミレーとモダンアート：ゴッホからダリまで」展



ジャン=フランソワ・ミレー
《種をまく人》1850年 油彩・麻布
山梨県立美術館



ゴッホ美術館（アムステルダム）
Photo: Jan-Kees Steenman

ゴッホに関する世界的な権威であり、世界中から数多くの来館者が訪れるゴッホ美術館と、アメリカの主要美術館の一つであるセントルイス美術館。この二館が共同で企画し、ミレーやルソーなどバルビゾン派の研究者として国際的に活躍するサイモン・ケリー氏（セントルイス美術館所属）が主導するのが「ミレーとモダンアート：ゴッホからダリまで」展です。当館所蔵の《種をまく人》《落ち穂拾い、夏》は、ミレーの画業を代表する作品であり、この展覧会の中核として出品依頼を受けました。同展は、ミレーがモダンアートの文脈に与えた影響を探る、世界でも初めての機会となります。

ゴッホの創造的な源泉となった《種をまく人》はゴッホ美術館へ、「ミレー」の代名詞といっても過言ではない3人の女性が描かれた《落ち穂拾い、夏》はセントルイス美術館へ、それぞれ貸し出されます。

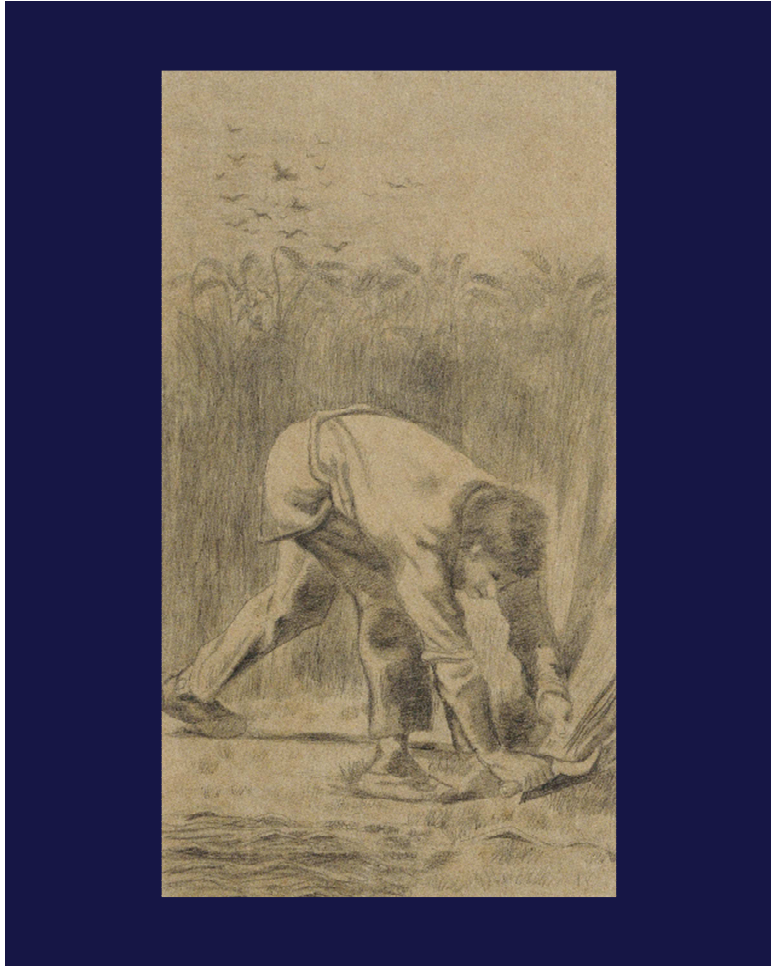
今回の貸出は、県立美術館と山梨県を国際的にPRする絶好の機会になると考えております。

【特別企画①】

「ゴッホが見つめたミレーの世界」 (仮称)

展示期間：2019年9月25日（水）～ 12月8日（日）

展示場所：山梨県立美術館 コレクション展A ミレー館



フィンセント・ファン・ゴッホ
《鎌で刈る人(ミレーによる)》
1880年頃 鉛筆・水彩、紙
上原美術館(下田市)

産業革命の進展が著しい19世紀のフランスにおいて、自然と共に生きる人間の姿を描き続けた画家ジャン＝フランソワ・ミレー（1814-1875）。その作品は、後世の画家たちに参照され、新たな芸術の誕生の源泉となりました。その中でも最もよく知られているのが、画家フィンセント・ファン・ゴッホの例ではないでしょうか。ゴッホは、画家として歩み始める前からミレーの作品を愛好し、また晩年には、力強い色彩とタッチを用いて、ミレーの作品世界を再解釈して自身の芸術へと昇華させました。

本企画では、ミレーからゴッホへの「影響」について、上原美術館所蔵のデッサン《鎌で刈る人（ミレーによる）》を中心にその詳細をご紹介しますものです。本作品は、ゴッホが独学で絵画を学んだ画業初期に、ミレーの作品を参照して描いたものとして、現存する大変貴重な作例です。このほか、ゴッホの芸術的想像源となったミレー作品を併せて展覧し、自然を愛した二人の画家の豊かな作品世界に迫ります。

【特別企画②】

「藤田嗣治：『黙示録』三連作の謎」

エコール・ド・パリの寵児として活躍し、第二次世界大戦後はフランスに帰化した画家・藤田嗣治（1886-1968）。2018年には没後50年を記念する回顧展が大々的に開催され、大きな注目を集めました。この展覧会にも出品された、当館所蔵の『黙示録』三連作を特集展示いたします。1959年にカトリックの洗礼を受けたフジタは、同時期にこの作品を制作しました。羊皮紙に水彩で描かれたこの三連作は、世界一豪華とうたわれ、多くの芸術家が参加した世界に一つだけの書籍『黙示録』のためのものでした。近年新たな研究が発表され作品の重要性が見直されています。本展示では研究で明らかになった新知見もご紹介します。

展示期間：2019年12月10日（火）～2020年3月1日（日）

展示場所：山梨県立美術館 コレクション展A ミレー館

研究協力：片野道子氏（天一美術館学芸員）



《四人の騎士》



《七つのトランペット》



《天国と地獄》

* 作品画像の使用には著作権料が発生する場合があります。使用の際はご注意ください。

【特別企画③】

「シャガール：《花束》に込めた想い」

マルク・シャガール（1887-1985）が、最初のパリ時代に描いた作品《花束》（1911年）。初期の作品ながら、その鮮やかさ、力強い生命力が観る者を魅了します。花瓶にかけた花や花束といったモチーフは、シャガールが生涯に渡って描き続けた重要なものでした。特にこの作品は、同モチーフが取り上げられた非常に早い時期の作品と位置づけられています。この年の5月、念願かなって芸術の都パリに出た24歳のシャガールが、パリの自由な空気と芸術家たちとの交流に大いに刺激を受け、色鮮やかな色彩と伸びやかな筆致で描いたとされる当館の名品をぜひお楽しみください。

展示期間：2020年3月17日（火）～ 5月下旬

展示場所：山梨県立美術館 コレクション展A ミレー館



マルク・シャガール
《花束》
1911年 油彩・麻布

* 作品画像の使用には著作権料が発生する場合があります。使用の際はご注意ください。

【開館時間】 午前9:00～午後5:00（入館は午後4:30まで）

【観覧料】

一般：510円（420円）、大学生：210円（170円）

*（ ）内は20名以上の団体料金、県内宿泊者割引料金

*高校生以下の児童・生徒は無料（高校生は生徒手帳持参）

*65歳以上の方は無料（健康保険証等持参）

*障害者手帳をご持参の方、およびその介護をされる方は無料

【交通アクセス】

●中央自動車道甲府昭和インターチェンジより

- ・料金所を昇仙峡・湯村方面へ出て200m先を左折、西条北交差点左折、アルプス通りを約2km直進、貢川交番前交差点を左折、国道52号を約1km左側。（駐車場：乗用車345台、バス16台、障害者専用6台 いずれも無料）

●JR中央本線甲府駅より

- ・甲府駅バスターミナル（南口）1番のりばより

御勅使・竜王駅経由敷島営業所・大草経由韭崎駅・貢川団地各行きのバスで約15分「山梨県立美術館」下車。（料金：片道280円）

- ・タクシーで約15分（料金1,700円程度）

●昇仙峡より

- ・敷島営業所行ききのバスで「山梨県立美術館」下車。

【お問合せ先】

〒400-0065 山梨県甲府市貢川1-4-27 TEL：055-228-3322 FAX：055-228-3324

●取材等の問合せ

山梨県立美術館 指定管理者 SPS・桔梗屋・KBS共同事業体

広報担当：五味（ゴミ）、輿石（コシイシ）

●展覧会内容・画像使用に関する問合せ

山梨県立美術館学芸課：小坂井（コザカイ）、太田（オオタ）